

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

雜感

若さを保つ習慣
NHKの番組で面白い話がありましたので紹介します。
脳の老化を予防するために何をすれば良いか、それには3つあるそうです。
①適度な運動、これは分かりますよね、歩くだけでも五感が刺激されますので、

脳のあらゆる部分がフルに活動します。

②指と目が連動した活動をする。例えば料理、これは幾つもの作業を並行して、段取りも考えなければなりませんね。

③細々したことを自分でやる。例えば掃除、洗濯です。歳を重ねると億劫になる活動を自分ですることによって脳の老化が防がれます。

そして、番組の最後には「新しいことに挑戦し続ける人」、「死ぬまで勉強する人」がいつまでも若くいられるのだとまとめられました。引退した方々がその後の人生を充実させるために、趣味を持たねば!

中学校では運動会の雰囲気もガラリと変わり、名前も体育大会に変わります。更には学習発表会（我々の世代は文化祭と言っていました）等も加わり、学生生活にも充実感が増してきました。

私の通った熊本市立楠中学校では、体育大会と文化祭は交互に行われるシステムで、1年、3年の時が文化祭、2年の時が体育大会でした。1年生の時はあまり印象にない文化祭ですが、2年の体育大会、3年の文化祭は充実感、達成感がありました。体育祭は1000走と7レーの学級代表に選ばれ、自己満足の世界ですが優越感に浸れた体育祭でした。3年時の文化祭で私の学級は何故か「ユースカル」「白雪姫」を披露の役になり、私は審判「ン」を白雪姫に渡す魔法使いのおおあさん役に！白雪姫のミュージカルが終わった後、時間が余っていたのでもう一度上演かと思われたのですが、当時流行っていた長瀬剛の歌を友達の手で歌う魔法使いの格好で歌った私なのであります。さすがにこの写真はありませんが、今だったら「トキトキに残されたのてしこゆね、なつみかいた」の題で澤田さん。

この年5生担任を任せて頂き、玉名町小での経験を活かそうと考へると、居ても立っても居られない澤田でした。

始業式、担任発表当日のことです。印象的な出来事でした。あれは。まあ、よくあることですが…。

その年に担任を任された5年生は、4年生の頃でちやうどいつに担任の先生と関係がうまくいっていたのだったといふ。こが「ひねた」感じのする子も達っていました。担任養父後 私ほ当然、子とも達ほ静かに教室へ待っているものと思っていました。しかし、数名の女子が階段の踊り場を飛び出して座り、私か通ると分かつているのに口づつとほせず、談笑しています。そのうち、こは「子とも達ほ新担任を試している状態です。私は心の中でいっと思ひました。

私はわざとその子達の足に引っかけたふりをして、こう言いました。

「あ、こんなところに足を投げ出した人かいる！　まさか人がいるなんて思わなかったから、足を引にかけてくいて（足をひねったりすると、子ども達はよくいじいたります。）しました！　大変だ！　どうしよう！　」

リーター格の女の子が、バカにしたようにこちらを見て笑っています。私は、その子の前に座ってこう言いました。

「おい、お前、俺はバカにしようか。お前もバカじゃなからうか。その態度が後々どきんどきんうっになっか考えてみい。他んちもんも一緒で。」
 (この言葉は悪業に表現。うと少々問題がありますので、控えめな表現に変えてあります。)

子ども達は、引きつった表情で教室へ戻りました。そこで私はこう思いました。この学級は、多分3つの課題があったに違いありません。その①は凡そ凡々の指導が徹底していなかった。その②タイムリーな指導ができていなかった。その③学級の一部の児童が全体を悪い方向へコントロールしていた。

「この時考えた三つの課題は、殆ど当たっていました。ということでは、この学校を『コントロールする』とは、私にとってさほど大仕事ではありませんでした。ここには、たんに願に書ける、何か自分を褒めているものですが、そうではありません。やめることには、『凡事徹底』『是々非々の指導』だけです。ですから、誰かやっている事、いやならなければならない事にすぎません。私は『学校は子ども達にとって居場所でなければならない』と思っています。それを根付かせれば良いだけです。私はこれまでやってきたことを、更に丁寧に実践していきます。たまたに恐怖で子ども達を『コントロール』しようとする先生がいますが、それは子ども達の心は育ちません。というより、そんな場所はもはや学校、学級とは言えませんね。私達教師は支配するのではなく、子ども達の主体性と協働性を最大限に引き出す脇役、即ちマネージャーです。子ども達が主体的に笑顔で協働する姿を笑顔で見守る。これが私の教師としての理想です。」

(こひい)